

栄東地区福祉のまち推進センター（以下「福まち」という。）では、地域で互いに支え合う環境を整え、だれもが安心して暮らせる地域社会をつくることを目的としています。このため、町内会等で支え合い活動をする方々、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、子育て世帯等を対象に様々な事業を展開しています。今号では、令和5年度の活動概要をお知らせいたします。

《支え合いサポート事業》

◆北興町内会の見守り事例を学ぶ。福まち研修会

7月20日、日の丸会館で「個人情報取扱及び見守り活動研修会」を開催し、町内会役員や福祉協力員など57名が出席しました。

個人情報取扱は、同センターが札幌市提供の65歳以上名簿を保管・管理し、町内会が見守り活動を実施する場合、閲覧に供していますが、必ずこの個人情報取扱研修を受講することが義務づけられています。

見守りのポイントは、気づき、共有と橋渡し

個人情報取扱では、東区社会福祉協議会の治部袋（じんば）・社会福祉士から「見守り活動は、無理なく気づきを集め、情報を共有し、関係機関などにつなぐ」というポイントの解説と名簿閲覧に必要な「情報共有は本人の同意が原則」等のルールの説明がありました。

行事を直接案内、同行も。関係構築と情報共有が参考に

次に、地区内の北興町内会の五十嵐・福祉部長から同町内会の見守り活動の報告がありました。同町内会は福祉協力員が10名で、概ね年2回、2人1組で見守り世帯の訪問をし、安否や健康状態を確認しています。訪問時は、ゴミ袋やティッシュを持参し、不在時にはそのセットとメモを差し入れます。世帯の状況は、年1回、ふれあい状況表というカードを作成し、世帯状況、緊急連絡先などを記録し、町内会役員や協力員が情報共有を図っているのが特徴です。

民生委員と町内会役員で構成する福祉活動委員会を組織し、定期的に情報交換するほか、町内会行事などは、直接案内を持参し、行事に同行をするなど、人間関係をしっかり構築し、情報共有で多くの人がかかわる体制が非常に参考になる報告でした。



《高齢者向け事業》

◆民生委員、協力員がともに介護保険を学ぶ

栄東地区の高齢者人口（65歳以上）は、9,159人で総人口の26.3%を占めます（令和6年1月1日住民基本台帳人口）。着実に高齢者が増加する中、介護保険は地域にとって不可欠な制度になっています。

栄東福祉のまち推進センターでは、11月29日、日の丸会館で民生委員と福まち福祉協力員を対象に、介護保険講座・事例研修会を開催しました。参加者は、70名（民生委員27名、協力員43名）で介護保険に対する関心の高さがうかがえ、多数の参加のため、同じ内容で2部に分けて実施しました。



まず、最初は、介護保険の基礎知識を学び、次に5つのグループに分かれての事例研修です。事例は、福祉協力員から民生委員に対する「最近、Aさんがゴミの日を間違えて出したり、ゴミ分別ができなくなったりして困っています。足もとがおぼつかず、心配です。」との相談を受けて、地域や病院、関係機関を巻き込んでどう対応していくかグループで話し合い、発表するものです。

認知症が疑える方に地域や関係機関がどう絡み、一人の高齢者が安心して在宅生活できるよう支援していくプロセスを学びました。グループワークでは、見守り活動にグループLINEを活用している町内会の例、町内会全体でゴミ出しをサポートする例、担当民生委員や親族と相談する例、町内会全体が見守りする例など、対応時の様々な工夫が発表されていました。

参加者のお一人は、「自分で問題に直面していないので介護保険のことがよくわかりませんでした。区役所、地域包括支援センター、介護予防センター、区社協や地域の連携の大切さがよくわかりました」と話されていました。



今回の研修会は、東区保健福祉課、東区第三地域包括支援センター、介護予防センター栄・丘珠、東区社会福祉協議会の皆様に企画・運営をご支援いただきました。

この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



◆過去最多 119 名参加。福まちふれあいお食事会

10月12日に日の丸会館で開催された栄東地区福祉のまち推進センター主催の「ふれあいお食事会」は、一人暮らし高齢者と福祉協力員などの交流事業ですが、スタッフを含む過去最多 119 名（一人暮らしの高齢者など 97 名と来賓 10 名、スタッフなど 12 名）の参加がありました。

今年も新型コロナに加えてインフルエンザ流行から、残念ながら短時間、お弁当お持ち帰りの 2 部制での開催となりました。今年こそはゲームや食事をしながらのふれあい交流を目指しましたが、スタッフ一同、健康には変えられないとの判断でした。

プログラムは、参加者同士の接触を控え、上映会「映像でめぐる世界遺産の旅」と「健康体操」の 2 つで構成し、1 時間余りで終了しました。

上映会では、秋の紅葉にちなみ、国内で世界遺産に指定された絶景スポットを栄東まちづくりセンターの竹重・副センター長のナレーションで紹介し、紅葉の美しさで定評のある京都の観光スポットをバーチャルにめぐりました。健康体操では、介護予防センター栄・丘珠の加藤センター長以下 3 名の指導でタッピー体操とさっぽろスマイル体操を行いました。2 つのプログラムは 1 時間余りで、スタッフがお弁当やお菓子を配布して会を締めました。

2 部も同じ流れで、2 組に分けることで密になることを避けましたが、過去最多の参加者にスタッフも大喜びでした。栄東地区福祉のまち推進センターでは、今後も、高齢者が気軽に参加できるコンサートなども企画してまいります。



《子育て世帯等支援事業》

シャボン玉を追う笑顔がはじける”なつまつり”



7月13日、ひのまる公園で就学前のお子さんを対象に、栄東地区の夏の風物詩・「第16回ひのまるちびっ子なつまつり」を開催しました。

会場は同公園のロータリー付近で、定番の「ヨーヨーコーナー」、手作りの金魚の折り紙を釣る「金魚釣りコーナー」、シャボン玉が景品の「的当てコーナー」、今年初登場の「輪投げコーナー」などが並びます。

中でも「バブルマシーン」が大人気で、時間中フル回転です。会場を舞うシャボン玉を追いかけてながら、子どもたちの笑顔がはじけていました。

会場には、子ども219人、保護者92人、スタッフ35人の合計346人が集まり、スタッフ一同、「子どもたちの笑顔に癒されました！」と準備の苦勞も吹き飛び、来年はさらに充実したイベントにしたいと思いを新たにしました。

親子で伝統文化に触れる。茶道・華道体験

12月23日の親子茶道・華道体験教室を開催しました。会場は、札幌市東老人福祉センター（東区北41条東14丁目）で茶道、華道と2部屋に分かれて、合わせて親子20組43人が参加し、茶道と華道のエッセンスを学びました。

茶道では、おもてなしの心や礼儀作法は言うまでもなく、短時間ではありますが、抹茶の茶碗への入れ方、茶筌の使い方、お菓子のいただき方、茶碗の回し方や向きなど丁寧に指導いただきました。

華道体験教室では、「クリスマスの花」がテーマです。お花の包装を開いて、おっかなびっくりの子もいますが、はさみを上手に使い、剣山に花材を挿していきます。親子で相談しながら、花や枝を選ぶ姿はなんともほほえましく、親子のよいふれあい体験になったかもしれません。

会場内は、3人の講師が回ってきめ細かくアドバイスし、クリスマスの花はみるみるうちに出来上がりです。花は剣山から外して持ち帰りますが、自宅に帰ってからも親子で美しい生け花を再現してくれることでしょう。

